

## 柳北小学校児童が「森の学校」で竹のおもちゃづくりを実施

令和6年10月1日(火曜日)に柳井市立柳北小学校において、1、2年生の児童15名を対象とした森の学校が実施されました。

これは、次代を担う子どもたちに、ふるさとの森林の大切さや林業の重要性を体感し、理解を深めてもらうために、林業研究グループ「柳井ふれあい森の会」(会長:山重 義則)が行ったものです。

はじめに、山重会長から森林の話を聞いた後、各学年2班に分かれ、会員の指導を受けながら、竹を使ったおもちゃづくりを実施しました。

1年生は竹のけん玉をつくりました。竹をノコギリで切って、持ち手とけん玉(竹の輪)を入れる場所をナタで切ります。ドリルで空けた穴にひもを通して、持ち手とけん玉を結んだら完成です。ノコギリを使うことが初めての子供もあり、ノコギリが怖いと言う声が聞こえましたが、徐々にコツをつかみ上手に切ることができました。実際に竹のけん玉で遊んでみると、なかなか竹の輪を入れるのは難しく、入れた時には思わず「ヤッター」と声があがりました。

一方、2年生は竹の水鉄砲をつくりました。2年生は、1年生の時に竹のけん玉を作ったこともあり、竹をノコギリで切るのは上手く、あっという間に竹を切っていました。完成すると早速グラウンドで試し打ちです。予想以上に水が遠くまで飛び、夢中になって遊んでいるうちに靴下はびしょ濡れになり、裸足になって夢中で遊んでいました。

最後には、竹とんぼのおみやげもあり、皆で楽しく遊んでいました。

柳井ふれあい森の会では、今後も森林資源を活かして、地域に根ざした取組を行うこととしています。



一生懸命ノコギリを挽きます



誰が一番遠くまで飛ばせるか競争です